

天ダム再開発に伴う工事用道路整備

宇治市

国が来月着手、議会会委に日程など示す

宇治市は25日の議会建設水道常任委員会（中路初音委員長）に国の天ヶ瀬ダム再開発事業に伴い、ダム下流の宇治川左岸に位置する市道山王仙郷谷線を同事業の工事用道路として整備する内容を報告した。近畿地方整備局琵琶湖河川事務所が取りまとめた内容について報告した。

以前、再開発事業の中止で工事がストップしていたが、事業実施で今回再開されることになった。

景観への考慮と工事用道路としての最低限の機能確保を目的に12

月中旬に着工するといろ。来年3月末までの工事期間で、工事延長は480㍍区間。1・5㍍の歩道を含めて8㍍幅員の道路として整備する。

再開発事業で取り組むトンネル式放流設備は24年度着手、27年度完成予定。現橋下流に架け替える新白虹橋の架け替えは25年度を予定している。

同橋の下流への架け替えに関連して、水谷委員（共産）が質問。質問の中で、地元地区の用地協力による架け替え見通しが具体化しないことには、工事用

橋梁としての機能を持つ橋梁だけに「再開発事業が進まないのではないか」と指摘した上で、ダム周辺で発生している放流による低周波音発生の影響を受けている地元志津川区に對する国の対応についても取り上げ、市としても前向きな姿勢で取り組んでいくよう指摘した。

低周波音の発生については、トンネル式放流設備の設置でも同様に発生するとの実験による調査結果が地元、志津川区に国が伝えており、対応策について検討中としている。